

『、観察、信じ、ことば、ともに……。』

あなたが錬成されるより古き彼方から
この思考と生死はあなたを観ていた
いまもむかしも、その地点には存在せず
ただココ！ ココだけがあつた

幼い手足ではじめて草花をかき分けたとき

「観察」は、あなたに与えて

あなたは、「観察」になった

視界がひらけたところ

違った容姿に、違った感情を持ちながら
どこか親しみやすい、幾数の老樹たちが
観えただろう

仙人（せんじん）なる渦どもは語る

「次はあなた」と

無敵の、無限の、無彩のこの観察は、
決して届かぬ差別や、種や、類の限界をも喰い殺し
最後には「ことばの樹」なる一本の懷に収束されるだろう

この樹に枝はない

成長もせず、かつ、最長不倒の樹木である

根に、幹に、樹冠に、梢に、相も変わらず「観察」は存在し続ける

主体のあなたがいることは

客観の私がいることの証明

私が語り綴ることは

あなたの来歴のよう

、観察、信じ、ことば、ともに……。／八坂零

、観察、信じ、ことば、ともに……。／八坂零

惑星がどこから線を引いてもつながるように
そこはかとなく、美しい

何度でも、何回でも、中心をたどって引こう

あなたは私を「観ない」を得ない

私はあなたを「観ない」を得ない

それから生態系が、宇宙が、物語が巻き起こっていたことを知る

すべてがココ！ ココだけにあった

生まれ落ちたことを憎むことがあるかもしれない

それでも信じて

零れる一粒の雫も、最後には底に溜まって清き水になるから

矛盾が捻じれるのはココ

ココにある「ことば」を

、観察、信じ、ことば、

前よりあなたが紡ぐなら

私にあとを継がせてほしい

ともに……。

、観察、信じ、ことば、ともに……。

2021年6月20日 執筆（2025年4月10日 改稿）

著 者 やさかれない
八坂 零

掲 載 芸術の星座
